

国際交流委員会・若手の会 共催企画 国際交流セミナー 「国際会議における対話力・発表力アップのコツー実例を基にー」

国際交流委員長 堀内かおる

第 71 回大会では、国際交流委員会と若手の会が共催で、今後の国際学会への参加を視野に入れた実践的なセミナーを企画・実施した。

2019 年 8 月に中国杭州において第 20 回 ARAHE(アジア地区家政学会)大会、2020 年 8 月には米国ジョージア州アトランタにおいて IFHE(国際家政学会)第 24 回大会が開催される。これらの学会に参加・発表を予定している学会員にとっては 2019 年 5 月現在には ARAHE での発表は目前に迫っており、IFHE については 2019 年 8 月末までが発表登録申し込み期限である。このような、国際学会発表に向けて準備を進めるタイムリーな時期に、本セミナーは開催された。

セミナーの趣旨は、国際的に家政学研究を展開し、国際学会で発表するために把握しておくべき知識とスキルを学ぶ機会にすることであり、二部構成であった。企画する際に留意した点は、特に、若手研究者が国際学会の場で発表したり英語を用いてコミュニケーションを図るために、実践的に学べるような内容とすることであった。そのため、特に今回は若手の会との共催を呼びかけ、同会のメンバーと意見交換をしながら内容を決定した。

第 I 部ではこれから ARAHE および IFHE の両学会大会への日本家政学会員の積極的な参加を促進する目的で、ARAHE 会長：佐々井啓氏と IFHE 副会長：工藤由貴子氏が講演を行った。

第 II 部では、国際学会における発表の仕方を習得する目的で、ネイティブ講師アン・ケーリ (Ann Cary) 氏 (神戸女子大学特任教授) が講演・演習を行った。その際、国際学会での発表経験のある若手研究者として、国際交流委員である萬羽郁子氏が実際の発表事例を提案した。

萬羽氏の提案をもとに、ポスター発表の場合と口頭発表の場合それぞれの特徴を踏まえ、英語で説明したり質疑応答での対話を活発化するための話し方や言葉の選び方などのヒントについて、演習を取り入れながら実践的に学ぶ内容であった。全体の概要は次の通りである。

【日時・場所】

日時 2019 年 5 月 26 日(日) 15:00—16:30
場所 四国大学 中央棟 3 階 A305 (I 会場)

【プログラム】

第 I 部

ARAHE への参加と発表について

ARAHE 会長 佐々井啓氏

IFHE への参加と発表について

IFHE 副会長 工藤由貴子氏

第 II 部

英語での発表：本当にシンプル イズ ベスト？

神戸女子大学 アン・ケーリ氏

実践提案 国際交流委員 東京学芸大学 萬羽郁子氏

質疑応答・まとめ

国際交流委員会

参加者は 49 名であり、専門分野は家政学全般にわたっていた。「要旨集を見て」参加したと回答した者が 61.5%を占めていた。

講演内容に対して、「とても興味深いセミナー」、「今後に役立てる内容」というような回答も寄せられ、参加者には満足していただける内容だったと伺える。

帰宅する交通機関の時刻のために最後まで参加できなかったという回答も複数あった。セミナーの時間帯を繰り上げて開催することが可能なら、さらに多くの方々が最後まで参加できるようになることが期待される。

このたびのセミナーは、若手の会との初めての共催という形であった。準備段階において、国際交流委員会の際には遠隔地間を Skype でつなぎ、若手の会幹事代表の奥井一幾氏にウェブ上で議論に参加していただくなど、会議の持ち方についても新しい試みがあった点についても、言及しておきたい。

今後も、実践的で国際的な研究活動のために有意義なセミナーを企画・実施していきたい。



会場の様子

「若手の会」の立場から国際交流セミナーの企画に携わって

若手の会幹事代表 奥井一幾

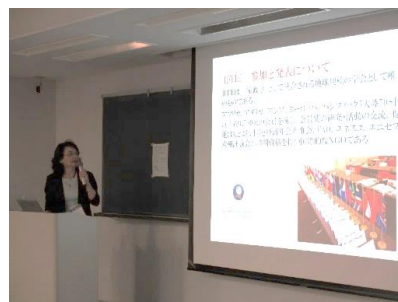
本セミナーは、若手の会の活動においてはおそらく初の試みとなる他委員会とのコラボレーション企画であった。

若手の会では、毎年9月頃に、幹事引継ぎおよび次年度企画会議を実施している。これは、年次大会を除いて、全国に散らばる幹事メンバーが一堂に会する唯一の機会である。2018年度は9月11日（火）に神戸松蔭女子学院大学で開催された。その場で、2018年度幹事代表であった宮本有香先生（神戸女子大学）から「国際交流委員会から、若手の会と共同でセミナーを企画したいというご意向をいただいている」旨の話があった。若手の会幹事メンバーの多くは国際学会への参加経験がそれほど多くなく、この機会にARAHEやIFHEについて詳しく知り、積極的に参加するためのヒントを得るべく「ぜひとも実現を！」という声が挙がり、全会一致でコラボ企画のスタートが決まった。このような経緯から、本セミナーの準備は、若手の会が国際交流委員会の先生方に終始リードいただきながら、部分的にわれわれのアイデアを盛り込んでいただく形で進んでいった。その1つが、2018年度幹事の花輪由樹先生（兵庫教育大学）が中心となり作成された「家政学クリアファイル」の配付であった。

迎えた研修会当日は、企画側のメンバーでありながらも、一参加者として講師の先生方のご講演から学ばせていただくことができた。

前半の佐々井先生と工藤先生のご講演からは、ARAHEおよびIFHEがどのような学会（団体）であるか、具体的にどういった内容の発表が行われているのかなどを知ることができた。これら国際学会の会長と副会長を務められる先生方から、直接お話をうかがえるまたとない機会であった。特に、2019年8月末に演題登録が締め切ら

れるIFHEについて、「掲げられている大会テーマに沿い、さらに家政学としての研究視点を明確に示した要旨を練ること」について確認できた点は大きな収穫であった。



工藤先生による講演

後半のケーリ先生と萬羽先生の実践的なご講演では、ポスター発表をよりよくする「技」について楽しく分かりやすくご教示いただいた。少しの言い回しの工夫や表記の変更で確かに「分かりやすくなる」ということを体験的に学ぶことができた。日本語が堪能なケーリ先生のスムーズな進行はもちろんのこと、ご自身の発表をセミナー資料として提供いただいた萬羽先生のお陰である。

私をはじめ、家政学に携わって日の浅い若手研究者にとっては、国際学会は少々縁遠いような存在であると思われる。しかし、この度のセミナーに参加させていただく中で「それほど遠くない存在」として、今までよりも身近に感じることができた。



ケーリ先生と萬羽先生による講演

セミナー全体を通しては、総合的実践科学である家政学に関わる者の一人として、世界のさまざまな研究者や実践者とネットワークを作っていくことの重要性についても学ぶことができた。また、今回とても嬉しかったことは、日本家政学会の多くの先輩方から、若手の会への温かいエールのお言葉をいただいたことであった。今後も、若手の新鮮な視点を生かして、学会の発展につなげられるような取り組みを引継ぎ、そして参加していきたい。



佐々井先生による講演